

第2期第15回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕 2015年7月20日（月） 10:00～12:00

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：石川清（会長）、井手伊澄、岩本陽児、太田美帆、押村宙枝、貝原俊明、佐合昭浩、辰巳厚子、富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子 以上14名

事務局：稲田センター長、鈴木担当課長、松田事業係長、井上担当係長、高木担当係長、村田担当係長、小林担当係長、小山主事（記録）

〔欠席者〕 小川久江

〔傍聴人〕 なし

〔資 料〕 ・第15回生涯学習センター運営協議会レジュメ

・市民大学を見学して（意見交流）（資料1及び当日配布資料）

・2015年度生涯学習センター事業 企画書 資料2～5

・2015年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告3（当日配布資料）

・東京都公民館連絡協議会の活動について（当日配布資料）

<市民大学について>

事務局：委員の皆様にも市民大学を見学いただき、気づいたことについて、アンケートを実施させていただいた。（資料1）当日配布資料としてお配りしたのは、2点の質問事項（1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点、2. 市民大学について、不明の点、もう少し詳しく知りたいこと）に対する回答をまとめたものである。資料をもとに今後の方針を立てていきたい。当日配布資料として実施要綱及びプログラム委員選任要項、プログラム委員の名簿、講座応募者数年代別割合の推移を添付した。

会 長：一配布資料の確認一

質問事項のまとめ資料の順番に、ご意見等を伺っていきたい。

委 員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

現代人間科学講座を見学した。真摯に授業を受け、熱意を持って取り組んでいた。一方で、活発に意見交換をする雰囲気ではなかった。学んだことを地域活動に繋げることを期待しているのであれば、もう少し違った構成の仕方が考えられるのではないかと。ことぶき大学と市民大学の違いを考えたときに、色々な世代や役割分担をしている人たちが多方面から意見交換をするといったスキルを身につける仕掛けが必要なのではないかと。

2. 市民大学について、不明の点、もう少し詳しく知りたいこと

当日配布資料の質問である。講座応募者数年代別割合の推移について、年齢不明者が増えていくのはなぜか。

事務局：イベントダイヤルを使った受付では年齢と性別は極力聞かないように言われている。参加された方へのアンケートにより調査するので、無回答も多い。

委 員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

現代人間科学講座を見学した。堂前講師の講義はわかりやすく、賑やかで良い雰囲気できていて、満足感が得られるものだった。このまま行けば問題ないと感じた。

委 員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

まちだの福祉、町田の郷土史、現代人間科学講座を見学した。90%以上が60代という印象を受けた。若い人たちへのアプローチをプログラムも含めて考えたほうが良い。また、講師との触れ合いや、プログラム委員との意見交換の機会がもっとあってもよいのではないかと。プログラム委員からプログラムに編成された経緯などを直接聞けても面白いのではないかと。

2. 市民大学について、不明の点、もう少し詳しく知りたいこと

時代によって市民ニーズは変わってくるものだから、アンケート調査をしたほうが良い。大学

も変わってきている中で、市民大学はあまり変わっているように見えない。アンケート実施を十数年していないというのは、努力がないのではないか。

委員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

“こころ”と“からだ”の健康学、まちだの福祉を見学した。参加者は高齢者が多いが、高齢者にとって身近な問題、課題に取り組んだ有意義な講座であった。まちだの福祉講座は、年度の前半は入門編で広く色々なテーマを取り上げ、後半は実践的な内容になるということで、今回の講座は前半部分として狙いにあった内容であった。健康学については、欲を言えば一方通行的な講義である印象を受けたので、もう少し受講者同士や講師との交流があったほうがよいのではないか。また、資料が事前に配布されていると予習もできるので、講義の時間を短縮し、質疑応答の時間を増やすことで、講座が充実するのではないか。「地域を育てる」という面から考えると、定員を少人数にして、受講生自らが色々な問題を発見したり、共有して問題解決にあたり、その結果を発表するというような仕組みを作ることにより、地域の課題の担い手の育成に繋がるのではないか。

2. 市民大学について、不明の点、もう少し詳しく知りたいこと

3点ほど挙げた。①プログラム委員と職員の役割分担（プログラム会議の運営、講座の企画など）②プログラム委員の構成（選任基準、委員数、新任・退任の手続きなど）③市民大学全体の課題について協議・検証する体制および運用ルール（講座の新設・統合・拡大・縮小・改編・廃止等の手順、市民大学受講生・修了生団体の発表の場、修了生支援の方策、プログラム委員合同会議、市民大学関係者連絡会の活用）

委員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

陶芸入門講座、現代人間科学講座を見学した。現代人間科学講座は殆どが夜の講座であるが、思っていた以上に高齢者の参加者が多い。内容は非常に深くタイムリーなもので、こういった内容を市民大学で取り上げていることに感銘を受け、修了生でもある陶芸入門講座を久しぶりに見学した。私が受講した4、5年前には応募者が多く当選倍率は3、4倍であったが、今は定員割れになっている。交通が不便だが、受講者は熱心に通っていた。

会長：陶芸講座の定員について、入門講座以外はどうか。

事務局：定員には達しているが、当選倍率が2倍などということはない。

委員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

まちだの福祉、“こころ”と“からだ”の健康学を見学した。どの講座もためになり、知識や情報が増えた印象を受け、受講者は熱心で頭が下がる思いであった。問題提起や事例紹介があったものの啓蒙的な学習が中心で、自分たちが次にどこに踏み出すべきかやり方がわからないのではないか。講座終了直後は意欲が高まっていると思うが、その後どこに繋げていったらいいのか沸かないのではないか。もう少し学習プログラムの仕掛けを検討するべきなのではないか。「あなたを励ます」という点は十分に出来ているが、「地域を育てる」という点は情報もスキルも現場に出向くことも必要であり、プログラムの工夫が必要である。また、「公共性のある生涯学習」の目標の再考が必要であり、それに基づいたプログラムの工夫が必要になるのではないか。

委員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

「あなたを励まし地域を育てる」という市民大学のコンセプトがどういった展開をしているかを念頭において見学を行った。町田の郷土史は非常に勉強になる内容であったが、「地域を育てる」「地域での展開」といった視点を考えると、座学の典型講座ではそれを実現するのは難しいと思った。そのなかでも“こころ”と“からだ”の健康学だけは、健康学伝道師というカードで学んだことを地域に伝えようという取り組みがされていて、良いと思った。そういった取り組みのなかで、50人受講したらそのうちの2、3人でも地域を育てる活動を展開していれば、よしとするのではないかと思った。

2. 市民大学について、不明の点、もう少し詳しく知りたいこと

社会福祉協議会、自治会、町内会など横とのつながりがとれるのではと思った。私は社会福祉協議会の活動にも関わっているが、社会福祉協議会の傘下で地域に展開しているのは玉川学園のみである。同じような課題を抱えている中で玉川学園をモデルケースにして他の地域で

も横断的な展開を考えていけないものかと考えている。

委員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

“こころ”と“からだ”の健康学、まちだの福祉を見学した。数回見ただけで全体像はつかみきれないと感じたが、個々の講座内容は充実していた。福祉の講座では受講生同士の話し合いの場が設けられていて、お互いの関係性や係わり合いはあるように感じたが、健康講座では座学形式で一緒に同じものを学ぶつながりや感覚は薄いように感じた。合間に受講生同士が係わりを持てるような機会が設けられていてもよいのではないかと。また、全部の講座が「あなたを励まし、地域を育てる」という市民大学のコンセプトに対して同じようにウエイトを置くのは難しいと感じる。

2. 市民大学について、不明の点、もう少し詳しく知りたいこと

まちだの福祉講座は、最後にプログラム委員が参加し、今後の展開について話し合いの場が設けられていたようだったが、他の講座でも同じような展開がされて、講座を聞いたあとで自分が進みたい方向が見えてくるような取り組みは用意されているのか。

事務局：法学、国際学、人間科学、福祉については振り返りや意見交換の場を設けている。自然講座は講師がプログラム委員になっているので機会を設けていないが、設けて欲しいと思っている。

委員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

一つ一つの講座はしっかりと組まれている印象であった。他の委員と同感で、講座から一歩はみ出た「あなたを励まし、地域を育てる」のコンセプトの「地域を育てる」の部分が非常に弱いのではないかと。富川委員の「あなたを励まし」と「地域を育てる」をテーマ別にしてもいいのではないかとというご意見について私は違い、やはり全ての講座で「地域を育てる」を重視すべきではないかと思う。先日、東京都公民館連絡協議会の研修でESDについて学んできた。市民大学の全部を束ねるビジョン、コンセプトにつながると思うので、ぜひやっていただきたい。

委員：1. 市民大学を見学して、感じたこと、気づいた点

まちだ市民法学を見学した。毎回違うゲストスピーカーがいらっしやり、内容も素晴らしく受講者も熱心に聞かれていた。「あなたを励ます」点においては皆さん熱心であるが、それが「地域を育てる」につながるかという点で難しいと思う。講座の際にも、市民活動によって社会を動かすことができるという話が講師から出たが、具体的な質問は受講者から出なかった。受講者にそもそも地域で活動をするのに関心があるのかと疑問を感じ、明確な工夫をしなければ人材を育てるのは難しいと感じた。

2. 市民大学について、不明の点、もう少し詳しく知りたいこと

若い人の参加者が少ない点について、大学等へのアピールはどのようにしているのか。大学で案内があるのを見たことなく、学生も全然知らなかった。今回、30名ほどの学生に市民大学を紹介して関心を持った学生もいたが、一方で「高齢者のための学習会だろう」とも言っていた。そのうち一人だけが、法学講座全9回すべてに参加し毎回熱心に取り組み、市民大学の講師のNPO活動に参加することになった。うまい具合にニーズがヒットすれば学生も熱心に参加すると思うので、もっと積極的に大学にも広報してほしい。

事務局：大学や学校関係は、5、6部事務局に送っている程度である。有償の講座で今までは学生をターゲットにした意識は持っていなかった。

委員：大学生は自分の大学にもたくさん学びの機会があり、恵まれている。専門学校に進学し就職する子、大学退学者などがどんどん学びとの繋がりから遠ざかって行く。アメリカのドラマなどでは「私はコミュニティーカレッジ出身だ」という台詞があり、社会人として働きながらコミュニティーカレッジで基礎的な教養を身につけたと胸を張って言っている。市民大学の社会的認識を高め、そこで学んだと言える場であれば10代の学びの場という路線をつくっていくのも将来的には可能性があるのではないかと。

会長：私も環境講座、自然講座、法学講座を見学し、それぞれ素晴らしい講義であった。プログラム委員と話す機会があり、運営協議会でやっている市民大学への取り組みを話したところ、「ありがたい」、「期待している」とご意見をいただき、「あなたを励まし、地域を育てる」というコンセプトについては、「地域を育てる」方策として運営協議会からなんらかの共通の方針が

出てくるとありがたいとのことだった。プログラムのなかの共通の仕掛けを我々の中で協議して持って行くべきである。「公共性のある生涯学習とは」という視点を持つと総花的ではないあるべきプログラムが存在すると思う。生涯学習と学校教育の兼ね合いのなかで、校長会からの代表委員にも意見をいただきたい。

委員：今の学校の現場では、アクティブラーニングといった主体的に活動することが話題になっている。大学などでの啓蒙活動の話では、具体的な活動を見せ自分でも動けるのではないかと、こういう場所であれば自分が磨ける、活躍できるといった働きかけの必要性や、一人ではなかなかやりたがらないのであれば、グループで集まったら地域を育てるところにつながっていくのではないかと感じた。なかなか一人でやれと言われてもできないので、グループづくりへの仕掛けが次のステップへのつなぎとなるのではないかと感じた。

委員：有意義な講座がありそれぞれ学習に励んでいて、地域への展開が弱いという話があった。例えば学校などへの展開を考えるなら、学校は地域の自治会・町内会、PTA、子ども家庭支援センターなどへのつながりはある。そういったところから講座の受講を勧めたり、修了生を地域で講師として招き、裾野を広げるようなバックアップの仕方は考えられる。10代、20代がゼロ更新であることはしかたないことであり、中学生、高校生は我々大人が考えているよりも大変多忙である。数字を上げて行くのは非常に難しいと感じる。

会長：その他全体の話聞いて、なにか意見はあるか。

委員：市民大学のコンセプトである「あなたを励まし地域を育てる」にある地域とのつながりはどうするのか。過去に市民大学の修了生で地域活動に取り組んでみないかと町田市から持ちかけられて、4団体が賛同し2年間程活動したことがある。取り組む上で苦労していたのは、地域とのネットワークづくりである。私も町内会や商工会議所などたくさんの人の話を聞き、当時増えていた廃校の活用方法を検討した。地域とのつながりをうまく作れば、「地域を育てる」点についても実現できると思う。

会長：プログラムのなかに、市民大学コンセプトの「あなたを励まし地域を育てる」の「地域を育てる」点を取り入れる仕掛けや具体的方策を次回会議で持ち寄ることを課題にする。

<協議事項>

1、2015年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 市民企画講座「中高齢者のための安心ライフプラン」

事務局：－資料2の説明－

吉川委員からの質問事項「市民企画講座の2つの団体について募集時に団体名は公開されますか。」については、広報まちだ原稿、チラシが出来上がっている段階だが、意図していないが団体名は記載していない。それぞれの団体は、PRをしながらチラシを配布していく。講座当日も紹介を行う。

辰巳委員からの質問事項「市民大学と内容のかぶるところもある。しかしながら、高齢化が進むなかで、このような内容は必要になるだろう。市民企画でこのような企画が可能であれば、どんどん行ってもらいたい。今後も期待する。」について、市民大学のまちだの福祉講座で同じ講師もいらっしゃる。市民大学は高齢化や障がい、地域福祉など広く学ぶものだが、講師にライフプランについて改めて勉強したいというニーズがあり団体からも企画が挙がった。

(意見・質問)

委員：講師は重複していて良いと思う。市民企画講座で市民がここまでできるなら、市民大学から市民企画講座へ移行していけば、市民大学の在り方も変わってくるのではないかと思質問した。

会長：市民大学が「地域を育てる」型に特化できるという言い方もできるのではないかと。

委員：タイトルの「中高齢者」とは、どういった年齢層なのか。

委員：当初は「高齢者」「シニア」などの表現をしていたが、ターゲットを広げたかった。辞書では、「中高齢者」とは、「中高年および高齢者の総称。おおむね40代以上から60代の年齢を指すことが多い。」と定義されている。テーマは高齢者であるが、その前段になる年齢層にも聞いていただきたい。ことぶき大学にも後期くらしコースに同じような内容のプログラムがある。差別化については、いきがいをテーマにしたことぶき大学のプログラムに対し、今回の企画は

これから控える困難に対応していくといった、あえてネガティブな面をクローズアップした内容にしている。地域のなかでお互いになにができるかを話し合う仕組みを入れていきたい。

委員：「中高齢者」の表現は、例えば「定年前にこれから知っておきたい老後の暮らし」などしたら、迎えたときにどうするつもりか問いたい世代にまで遡及できるのではないか。また、このテーマの企画講座であれば、振込み詐欺への注意喚起も入れてはどうだろうか。

(2) 町田地方史研究会共催事業「徳川家康の晩年」

事務局：－資料3の説明－

町田地方史研究会より徳川家康の遺体を日光東照宮に運ぶのに、町田を通ったことを含めて晩年の徳川家康に焦点を当てた企画の実施申し出があった。会場と宣伝、受付業務は生涯学習センターが行い、講師依頼、謝礼等は町田地方史研究会が担うという方法で事業実施する。

(意見・質問)

委員：小学生にとって歴史は教科書や本のなかなど、日常とは別のところにあるものである。徳川家康の遺体が近所を通ったのかもしれないという切り口は年号を覚えるのとは違う学習になり、子どもが食いつくと思う。講座内容を小学生にプレゼンをするといった学習を行うと、地域への貢献にも繋がる。

委員：ことぶき大学でも徳川家康の講座はとても好評で、没後400年となりタイムリーでとてもいい企画である。

事務局：辰巳委員からの質問事項「町田の歴史講座は充実している。町田地方史研究会委託事業としてもいいのではないのでしょうか。」は、どういった意味合いか。

委員：歴史は街にとって重要なものであるから、どんどん町田地方史研究会を活用した企画をやってほしい。

委員：一番食いつくのは歴史好きな男性だと思うが。そういった方が集まる場所である歴史系の博物館に広報して、ぜひ生涯学習センターのアピールをしてほしい。

会長：没後400年に関連した催しは、他にも実施するのか。

事務局：とくに予定していない。

会長：学会レベルでも非常に盛り上がっている話題である。広くアピールしてほしい。

(3) 「乳幼児を持つ保護者のための講座Ⅱ」

事務局：－資料4の説明－

辰巳委員からの質問事項「4、6回のワークはどのようになっているのでしょうか。4回目で「親子交流会」を企画し、6回目で実施してみるといいのではないのでしょうか。」について、4回目のグループワークは2、3回目の振り返りをグループでシェアリングする内容である。参加者が主体的となりプログラムを作る仕掛けも必要であり、ご意見を今後活かして行きたい。

(意見・質問)

委員：家庭教育支援学級グループ「ママだってまなび隊」は昨年と同じ団体か。

事務局：昨年とは別の団体である。

委員：昨年の団体は活動を継続しているのか。

事務局：活動していない。今後の課題である。家庭教育支援学級は2年間の活動であり、1年目に学びを行い、2年目は講座等の企画を行っている。

稲田センター長：生涯学習センターを使った活動は2年間で、その後は地域のなかで活動していただくということになる。

(4) コンサート アコーディオン演奏会「魅惑のアコーディオン～シャンソンとともに～(仮)」

事務局：－資料5の説明－

吉川委員からの質問事項「応募者が多いと予想されイベントダイヤルの対応、会場への入場などスタッフさんのご苦労も多いかと思いますがこれまでのノウハウを生かして楽しめるイベントとなりますよう期待しています。」については、イベントダイヤルでキャンセルの場合は連絡をいただく旨の告知をしているが、当日キャンセルも出てしまい応募数の8割程度の来場

となる傾向がある。多くの方が参加できるよう努力していきたい。

(意見・質問)

委員：奏者である伊藤ちか子氏の経歴について、教えていただきたい。

事務局：ソロ演奏中心に、ジャンルを超えて活動されているプロのアコーディオン奏者である。

委員：町田市とのつながりはあるのか。

事務局：今回はインターネットで調べオファーした。

委員：こういった公演の人選は、どのように行っているのか。

事務局：とくに決まりはない。職員が知っていた方や、楽器に注目して奏者をインターネットで調べたケースもある。

委員：小学校の音楽室にアコーディオンは並んでいるが、子どもはきちんとした演奏を聴いたことがないと思う。弾いてみようというコーナーがあれば、違った層の集客もできると思う。

委員：来年リオデジャネイロオリンピックが終わると、日本全国で東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムが一斉に始まる。町田市で先行して、「世界の音楽を知ろう」などタイトルに入れるだけでも人々の関心や町田市の盛り上がりが変わってくるのではないか。

委員：シャンソンであること、東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムが始まることもあり、世界の大使館などから少しでも応援をいただければ、町田市の生涯学習センターの知名度が上がるのではないか。

会長：当日来場された参加希望者にはどういった対応をしているのか。

事務局：時間まで待っていただき、キャンセルが確定しそうなら参加いただいている。

委員：整理券などの配布をしているのか。参加できなかったときに、トラブルにならないか気になった。

事務局：整理券は出していない。多くても当日参加希望者は4、5人である。

2、事業評価について

(1) 和光大学共催講座「メディアの中の『性』を読み解く」

事務局：－資料6の説明－

(意見・質問)

委員：4回の講座及び交流会すべてに参加した。町田市全体で考えると性やジェンダーの問題はもっと取り上げなければならないと感じる収穫の多い講座であった。

会長：和光大学との共催講座ということで、役割はどうか。

事務局：和光大学で講師をお願いし、生涯学習センターで会場と広報、受付を行った。

委員：年齢や男女比について伺いたい。

事務局：講座を夜に開催すれば、もっと集客できたのかもしれない。当初は保育をつけて子育て世代が参加できるよう午前中に設定した。しかし乳幼児講座と日程が重なってしまい、保育をつけられなくなった経緯がある。男女比については、男性は4割ほどで、年配の男性。女性のなかには、20代1名、30代も数名いた。

(2) コンサート「アルパの調べ」

事務局：－資料7の説明－

演奏だけでなく衣食の文化や、珍しい楽器に触れることができる時間があり、非常に好評であった。

(意見・質問)

会長：「町田発世界の楽器を知ろう」などとして、ぜひシリーズ化したい内容である。

委員：応募者が170人であり非常に関心の高い講座である。毎回出席率が8割程度などであれば、受講確定者数をもう少し多めにしてはいかがか。

事務局：5月のフレッシュコンサートで定員をオーバーしてしまったことがあり、消防法の規定も考慮し応募者全員が参加することを見越した設定にした。また、受付時にイベントダイヤルでキャンセル時には必ず連絡の旨を伝えている。キャンセルの連絡があった場合は、繰り上がりで当選を行った。

会 長：出席率はあらかじめ応募して人をカウントしたものか。
事務局：受講確定者数と当日いらした方から出したものである。
委 員：興味を持って聴きに行ったが、とても良い公演であった。こういった公演をどんどん企画して欲しい。
委 員：玉川学園にインド舞踊をされる方がいらっしゃる。一度小学校で講座をやったことがあり、楽団を連れてきていただき安価で開催できた。
会 長：もう一步積極的にやってもよいのではないか。ご検討いただきたい。
委 員：大使館や町田在住の外国人との連携を通じて、バラエティーに富んだ演奏会を開催していただきたい。

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～3まで、資料のとおり報告する。

2、センター長報告

ビル外壁改修工事のお知らせについて

7月1日から12月15日まで、生涯学習センターが入居している町田センタービルの外壁改修工事を行っている。工事期間中はビルに覆いをかけ作業しているが、施設は通常どおりご利用いただける。広報まちだ等で周知している。

3、東京都公民館連絡協議会の活動について

○委員部会について

委 員：東京都公民館連絡協議会の活動について（当日配布資料）のとおり、6月、7月及び合同部会について報告する。

関東甲信越静岡ブロック研修大会兼東京都研究大会のテーマ「持続可能な社会づくりと公民館の新たな可能性」については、市民大学のビジョンにおいて通じる部分があり、見えてくるものがあるように思った。

4、その他報告事項

○関東甲信越静岡ブロック研修大会兼東京都研究大会・運営協議会委員の参加のご案内

○2014年度事業報告書「まちだの学び」発行のお知らせ

（意見・質問）

委 員：印刷は何部であるか。

事務局：450部である。各東京都公民館連絡協議会加盟市、生涯学習審議会、生涯学習センター運営協議会など各委員、議会にお配りしている。他市視察・訪問にも活用する。

委 員：図書館や大学図書館はいかがか。

事務局：各図書館には配布している。大学図書館へは検討させていただきたい。

稲田センター長：紙ベースでは450部であるが、町田市HPにデータも公開している。

○議事録の形式について

議事録の形式を現在は一字一句記述した形であるが、読み返した際に論点がわかりにくい点がある。今回分から、要約筆記の形式を取らせていただくことをご了承いただきたい。

<その他>

会 長：次回は9月25日金曜日14時～町田市生涯学習センター6階学習室2で開催する。